



井波っ子

(題字は昨年度県書き初め大会出場児童)

うれしくなる言葉掛け

校長 中町 寿子

1学期にあった出来事を二つ紹介します。

清掃の時間のことです。洗面所前のマットに掃除機をかけていたら、近くの教室を掃除していた1年生の子供が、ちょこんとやってきて、「ありがとうございます。」と声を掛けてくれました。子供も教員もみんなが掃除をする時間です。それなのに、そんな言葉が出てくることに驚きました。

廊下に立っていた時のことです。うっかり、近くにあった掲示用ボードにつまずいてつま先をぶつけてしまいました。少しよろけた私に、近くを通りかかった3年生の子供が、「大丈夫ですか。こういうことありますよね。」と言ってボードの位置をずらしてくれました。よろけて恥ずかしいと思う気持ちが消えていきました。



ありがとうございます。



大丈夫ですか。こういうことありますよね。

一人一人の素敵に心が温かくなりましたが、改めて考えると、この子供たちは、決して相手を喜ばせなければならぬと考えて言ったわけではありません。自然に、そして、どこか無意識に相手の気持ちを分かろうとする心が働いたのだと思います。このような心から掛けられた言葉はとても相手をうれしい気持ちにさせます。また、次もがんばろうといったやる気や失敗しても分かってもらえるんだという安心感にもつながります。なんと素敵な子供たちでしょう。でも、どの子供にもこういう心があるのです。

今年度の「助け合う子」のアクションプランは「相手がうれしくなる言葉掛けをする」です。それは、相手を褒める言葉掛けというより相手に寄り添った言葉を掛けるということだと思っています。直接言葉を掛けられた人だけでなく、そんな姿を近くで見ていた人も幸せになります。

ここで、もう一つ大切なことは、うれしくなる言葉を掛けられた相手がどんな気持ちになっているかを伝えることだと思っています。自分の行為で相手が喜んでくれることの喜びを知る、次もまた相手のことを考えていきたい。私たちは、そんな心の積み重ねができるよう支援していきたいと考えています。

自分のことが伝わったよ！

英語専科教員 中谷 真由美

今年度は、外国語科の学習の中でオーストラリアのヤンディナ小学校との交流を行っています。オンラインで自己紹介をしたり、手紙やビデオレターを交換したりする計画を立てています。

5月には、Web 会議システムを使ってオンライン交流をしました。教室から画面に映し出されたオーストラリアの子供たちに英語で話しかけました。5年生は自分の名前や好きなことを、6年生は自己紹介に加え、富山県や井波地域について紹介しました。ヤンディナ小学校の子供たちは、日本語を習っており、日本語で自己紹介してくれました。子供たちは「I like soccer. って言ったら手を振ってくれた。サッカー好きなのかな。」「井波の彫刻について紹介できた。」と喜んでいました。

このようにいろいろな活動の機会をとらえて「相手のことが分かった」、「自分のことが伝わった」という経験を重ね、何をどのように伝えればよいのか考え、相手意識をもって主体的にコミュニケーション活動に取り組む子供たちの育成を目指したいと思います。



【オーストラリアヤンディナ小学校との交流の様子】